

『ポリシーミックス下の国債市場』

E12-0641B

目次

- 第1章 経済の現状
- 第2章 財政金融政策
- 第3章 国債発行の問題
- 第4章 国債発行の限界

国債の価格は $P_B = D / i$ (D : 配当)と表せるので、長期金利上昇によって国債価格は下落する。

現状 長期金利は低利で安定

理由 貸し渋りと資産調整のため、銀行が国債を大量保有
巨額の対外純資産 - 経常収支が早ければ3年から、遅くとも5年のうちに赤字になる公算が大きいため、対外純資産が減少していく。

格付けの引き下げや金融機関による買い控えなど、国債市場から発生する自発的な要因が引き金となって国債が暴落する可能性は低い

国債が暴落する可能性が高い場合
日本経済に対する信認が完全に失われた場合
円安、株安、債権安が起こり、資本逃避が発生 「トリプル安」

現実に、円安、株安、不良債権問題を背景に、ヘッジファンドなどが仕掛けたな売りを出している。長期金利の水準は昨年末から徐々に切り上がっている。海外の中央銀行など、長期金利が2%近かった3年程前に現物債を購入した投資家が、円安と金利上昇で投資採算が悪化したため、現物債を売り始めた。国債の運用によって不良債権処理の原資を捻出しようとしていた邦銀は、国債の売却を急いでいる。従って、国債価格は徐々に値下がりし、予断を許さない状況になっている。

対策 国債累増の背景にある財政制度の改革
不良債権処理・事業の見直しなど金融改革
生産性・国際競争力を高める企業改革